

アンケート調査を通してユースをより理解する

今回、OneHope が 20 カ国のティーンズを対象に実施したアンケート調査は、今後のユースミニストリーに大きな示唆を与えるものとなるでしょう。

この時代、この世代に福音を伝えられるのは、今を生きる私たちだけです。今回のデータを通して、クリスチャンユースへより深く理解を示し、各教会が青年伝道を進めることを願います。

ユースとメンタルヘルス

現在日本のティーンズは、メンタルヘルスにおける様々な問題を抱えています。その問題を生み出す要因の一つは、コロナ禍による、急速なオンライン環境の整備です。

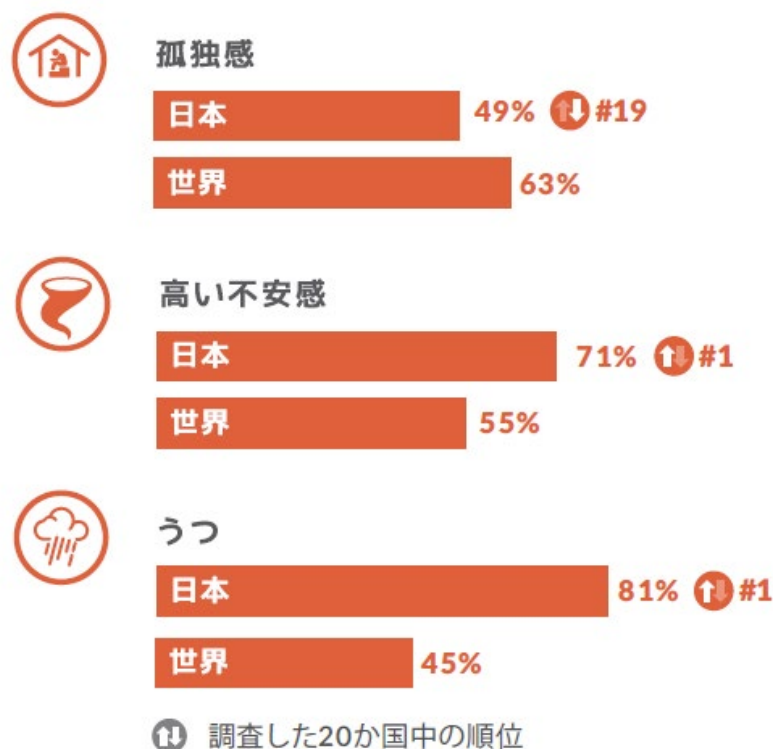
いつでもどこでも、誰とでもつながることのできる環境が、かえってティーンズの不安感と鬱状態を助長させているように感じます。

彼らが直面している問題は、いじめ、SNSトラブル、不登校、スクールカースト、引きこもりなどであり、どれもが深刻な問題です。これらの問題のほとんどが精神面に打撃を与えるものであり、全ての問題は精神的な疲れから引き起こされていると言っても過言ではありません。

いじめと一口に言っても必ずしも物理的な暴力だけではありません。陰口、蔑みの目、無視など、どれも証拠が残らず、極めて非人道的なものが多いと言えます。日本のティーンズを取り巻く今現在の環境は、彼らにとって”生きづらさ”を感じさせるものが多いのではないでしょうか。

孤独感が低くても不安とうつに悩む日本のユース

データを読み解くときは想像力を働かせながら、データ同士を比較し検証する必要があります。お伝えしたいことは、データのひとつを見て結論を得るのではなく、データを相対的に見ることで、その背後にある事象を読み解くことが必要であるということです。



データを見ると、日本のティーンズは世界のティーンズよりも孤独感を感じている割合が低いことがわかります。しかし、孤独感の割合が低いことのみを見て、安堵することはできません。

注目すべき点は、孤独感が世界で一番低いにもかかわらず、不安感とうつ状態に悩まされている割合が世界で一番高いということです。

日本のティーンズの10人に7人が極度の不安を抱え、10人に8人が鬱傾向にあります。彼らは、鬱病や不安障害と診断されていなくても、極度の精神的ストレスを感じたと言っています。

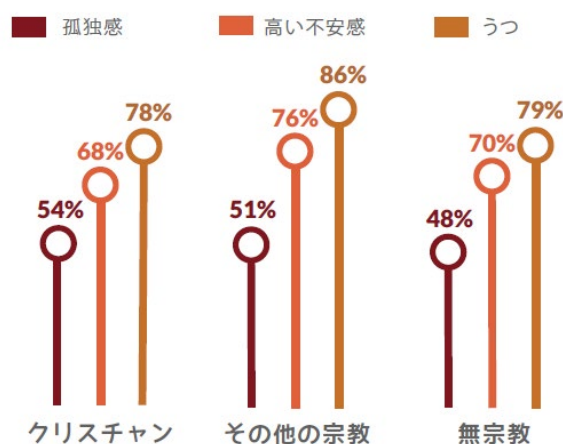
例えば、彼らティーンズが孤独を感じていないということから何を想像できるでしょうか。彼らは、何らかのコミュニティーに属していて、仲間や、クラスメートが彼らの周りにいる可能性が高いと言えます。しかし、それにもかかわらず不安感と鬱的な思いは、世界で一番高いということはどういうことでしょうか。

おそらく不安感が強い理由として、人間関係やコミュニケーション能力に課題があると予測します。彼らは孤立することを恐れ、常にどこかのコミュニティーに属することを考えているのではないのでしょうか。しかし、そのことのために、孤独を感じないようにすることと引き換えるようにして、人間関係の不安が彼らにつきまとっていると推測されるのです。

これでは本当に孤独感が低いとは言えません。誰かと一緒にいることだけでは、必ずしも孤独感がなくなるとは言えないからです。それは応急処置のようなもので、問題の根幹部分の解決にはなりません。彼らが自分らしく、ありのまま受け入れられる空間こそが不安感と

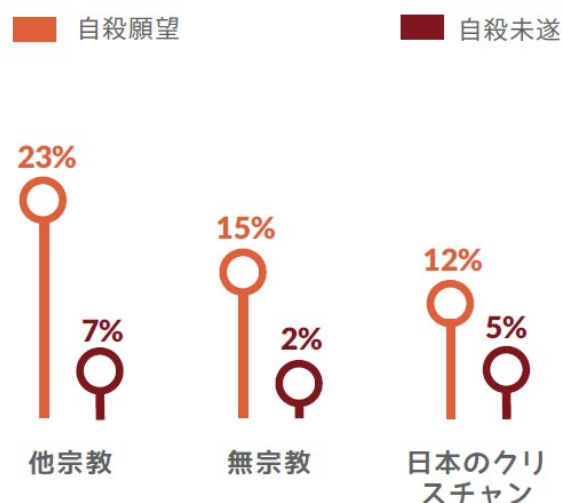
鬱的な状態からの解放だと考えます。

クリスチャンユースへの聖書教育は十分か



そして、私たちの最大の懸念事項は、不安、孤独、鬱状態をクリスチャンティーンズもノンクリスチャンティーンズと同様に心に感じ抱いているということです。この結果を見て「ティーンは皆同じだから、当然の結果だ。」という人もいるかもしれませんが、それは正しい見解ではありません。

過去3ヶ月の間に経験した：



なぜなら信仰がもたらす良い影響を受けているクリスチャンティーンズは、未信者ティーンズと比べると、「自殺願望を持ったことがある」と回答する人は低く結果が出ているからです。これの意味することは、聖書的価値観が何らかの良い影響を彼らに与えているという

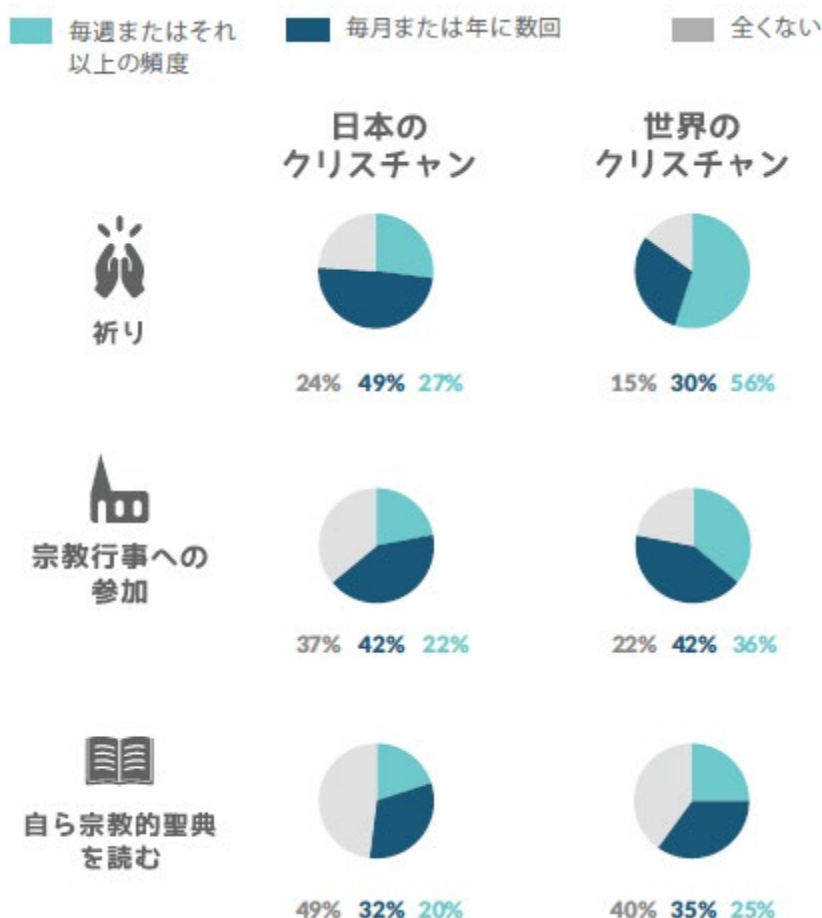
ことではないでしょうか。

つまり、彼らは聖書教育を通して、自殺ということは、避けるべき最悪の事態であることとして知っているのです。結果、聖書信仰は若者を自殺から守っています。

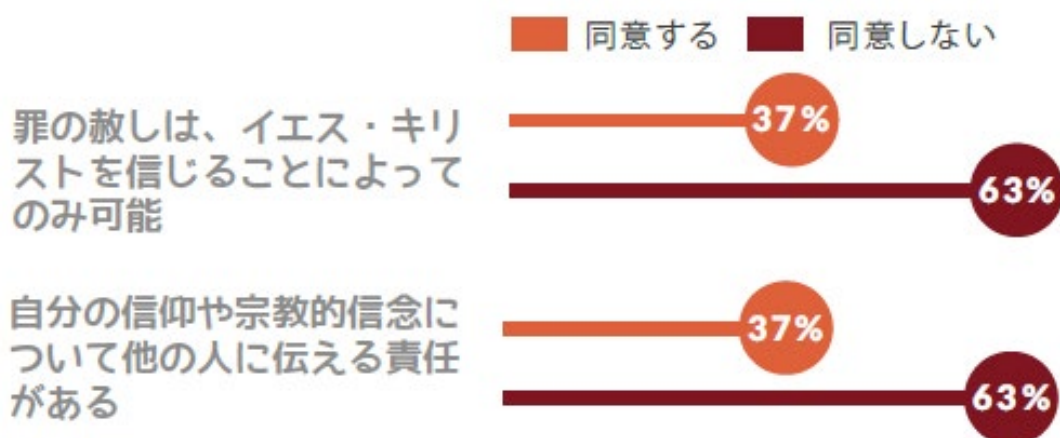
それにもかかわらず、福音を知らされている者が、知らされていない者とほぼ同じように、不安、孤独、鬱状態にあるということは、憂慮すべき点であると言えるのではないのでしょうか。おそらく不安、孤独、鬱状態に対しての聖書教育がなされていないため、未信者のティーンズと同じ状態にあるのだと思います。

ユースの礼拝・福音理解・伝道の課題

幼い頃はノアの方舟、ダビデとゴリアテ、などの聖書のストーリーを伝えることが必要です。しかし、ティーンになってからは、彼らの成長に合わせて、彼らが直面している課題を乗り越えさせる聖書教育が必要なのです。今後は彼らの信仰の弱さを考慮しつつ原因を推測し、聖書教育の見直しを図る必要があると思います。




非常に残念なことに、日本のクリスチャンティーンズの49%が聖書を読んだことがありません。また、彼らの礼拝出席率は5人に1人なのです。



さらに驚くことに、日本のクリスチャンティーンズの3人に2人（63%）は、「罪の赦しは、イエス・キリストを信じることによってのみ可能である」という真理に対して同意していないのです。また、多くのクリスチャンティーンは、「自分の信仰について他人に伝える責任があるとは思わない」と回答しています。

その結果なののでしょうか、日本の57%のティーンは、未だクリスチャンとあったことがありません。（この数字は残念ながら世界ワースト1位です）

日本のティーンズの**57%**は、クリスチャンに会ったことがないと答えしており、この数字は調査した国の中で最も多いです。クリスチャンの知人がいる人は、彼らは親切で思いやりがあると答えています。



どう成長して欲しいかをしっかり定めてティーチング

今後は、ティーンズに対する聖書教育の見直しが必要です。

でもその前に、「どう成長して欲しいのか」という理想像をしっかりと定めておく必要があります。それをしなければ、ティーチング内容がブれてしまったり、色々と上手く回らないと感じています。

今後このティーンズたちはどのような信仰者になって欲しいのかと一言を明確にして、それに伴うティーチング内容をしっかり定めていくことが大切だと思っています。

我々の目標や理想ありきのティーチングというわけではないんですが、祈りながら、みこころを探りながら、この時代・この世代にあった聖書教育とは何なのかを見い出していく必要があると思います。

世界のユース文化調査について

この調査はOneHopeが20カ国に住んでいる合計8,394人のティーンズ(13-19歳)を対象にしたものです。この20カ国のうちに日本が含まれていて、日本の若者と世界の若者の考え方や生活の共通点や違いを学べます。

取り扱っているトピックは

- ① 宗教的態度と行動
- ② 個人的な体験と葛藤
- ③ インターネット生活とその影響
- ④ アイデンティティと人間関係
- ⑤ ティーンたちへの影響と指導的な声 です。

世界のユース文化調査の世界版と日本版は OneHope のウェブサイトからダウンロードできます。

➡ <https://onehopejapan.net/2022/05/gyc2022>